

京都府立 東宇治高校 ラクビーフットボールクラブ

10周年記念誌



H.R.F.C

・ 目 次 ・

・ 十周年誌創刊にあたり -----	1
東宇治高校 学校長	山崎 好章
初代顧問 山城高校	市原 興治
現顧問 東宇治高校	大橋 薫
	谷野 二郎
お世話になった先生(顧問以外)	
北陵高校	西岡 敬介
鴨沂高校	尾崎 哲郎
・ 十年間を振り返り -----	2
1975年度 -----	5
1976年度 -----	6
1977年度 -----	8
1978年度 -----	11
1979年度 -----	14
1980年度 -----	17
1981年度 -----	20
1982年度 -----	23
1983年度 -----	26
1984年度 -----	30
1985年度 -----	33
・ 住所録 -----	36
・ 十周年誌編集記 -----	42

創刊にあたって

ラグビー部創部10周年を迎えて

学校長・山崎好章

ラグビー部結成10周年を迎えて、近年、輝やかしい成果を積みあげていることに対し、心から敬意を表すると共に、今後の躍進に大なる期待を寄せております。

私は、ラグビーのルールを殆ど知りませんが、男と男が全力を出して、ぶつかり合い、気力の全てを独特のボールに集中する様は、実に、男性的、魅力的に思えてなりません。

20数年前、在職していた学校で、監督の老先生が、雨の中、傘をさし、乍ら生徒の練習ぶりを始めから終り迄、またまた、注視されていた姿が、今でも目に焼きついております。その姿は、鬼とも佛とも見えませんでした。

本校のラグビー部を生み育ててくれた先輩、顧問の先生も同じ道を歩んで来たに違いないと思います。

どうか、一にも努力、二にも努力、日々の努力こそ、府下一、全国大会出場につながることを銘記して頑張ってください。健斗を祈ります。

(昭和61年3月)

10年をかえりみて…

初代顧問・市原 興治
(現在・山城高校 ラグビー部顧問)

東宇治高のラグビー部が創部来十周年が過ぎたと、聞き感激にたえません。思えば同好の生徒が十名程で、楕円形のボールを追ったのが十年前。私も今と違って、まだ若く、生徒達とランパスをしたり、スクラムを組んだりの毎日でした。やっと練習試合ができるようになって、やれば、いつも大敗でもう半分嫌気がしかけたこと、トライができて大踊りしてよろこんだこと、又十試合目で大谷高との練習試合に初めて勝った時のあの涙のでるような感動と、あくる日の二日酔いのしんどさ。私の大切な思い出です。もう来ることのない新鮮な、そして純粋な一時でした。

部は徐々に充実し、強くもなり、ベスト4も獲得して、いい日々でした。"クリーンラグビー東宇治"といわれ、顧問である私は、鼻高々の気分でした。夏合宿の鉢伏高原、春の遠征、岡山、広島、名古屋。そして雪の降る北陸能登、どれもとってもいい思い出です。部員同志が仲の良いことは、他のラグビー部に類がなかったし、マネージャーも含めてその学年、学年で卒業してから、チームワークがよいのには感心しています。

私は、東宇治高を出たて出た訳でないから、転勤してからも東宇治のラグビーのことが、いつも気になります。いつまでたっても、自分のもののような気がしてこまる時さえあります。

今の現役諸君とは、ある意味では何の関係もないのですが、同じように教え子のように思ってしまうのです。卒業生が家に来て、当時の話をしてくれる時、夏の鉢伏で逢える時、東宇治の私の教え子たちと唯一のたのしみです。

10年をひとくぎり。伝統を作り歩んでください。伝統は、

年輪ではなく、内容です。内容では、もう充分伝統のラグビー部です。
現役の諸君のがんばりを期待します。

東宇治高校ラグビー部の発展を祈って

現顧問・大橋 薫

創部10周年をこうして迎えることが出来たことを、心から喜ばしく、光栄なことだと思えます。輝かしい部史を誇る我が東宇治高校ラグビー部を預かる者の一人として、重責を感じると共に、より大きく逞しく、飛躍したいという気概を感じております。

現在のクラブの状況は、やや人数面で苦しい所があるものの、体力・技術・精神面での充実は着実に向上しつつあり、今年度(昭和60年度)も常に上位に食い込む実績をあげています。

これまで数々の栄光や伝統を受け継ぎ、先輩諸兄の励みに応えらるべく、今後とも精進努力して行きたいと思えます。そして、15年...20年と発展充実して行きたいと思えます。

現副顧問・谷野二郎

東宇治高校ラグビー部の顧問をして早や五年が過ぎました。ルール等、特に知らない私の仕事と言え、怪我人の付添い、救急車には、三回乗りました。生徒を病院まで自家用車で運んだのは、まあ何回あるでしょうか。

公式戦は大抵見ましたが、やはり大差で圧勝した時の清々しさは、格別です。でも年に何度か見た、敗けた時の大の男の子達が、人目を、はばからず泣きじゃくる光景もまた最高です。OBの諸君も懐きがあるでしょう。

指導者に恵まれな時期もありました。しかし、そんな時、入替り立ち替り訪れてクラブの指導に汗を流してくれるOB達の姿を見て本当に頼もしく思いましたし、有難くも思いました。生徒達もよく応えて素晴らしい成果を残してくれたと思えます。

最後に歴代のマネージャー達の苦勞もこの際、ねぎらってやりたいと思えます。

今後の益々のラグビー部の発展を祈ります。

北校高校ラグビー部 監督

西岡 敬介

私もラグビーを始めもう十年になります。それは東宇治ラグビー部の歴史と同じです。同好会から出発し、何も知らないひよこ軍団が市原先生の指導によって、タックルだけを武器に様々なチームに立ち向かい、九連敗という洗礼をあびました。そんな形でスタートしたチームが、今では、常時ベスト4に挑むチームに上ったことも、OBとして非常にうれしく感じています。卒業後も色々なかたちで練習に参画させてもらい、東宇治ラグビー部と共にラグビーの道を歩んできたように思います。

でも今年目を向かえ、後輩達に望むことは今の位置に甘んじることなく、あくまでチャレンジャー精神で上位を目指してほしいということです。苦しさを辛さを、そして敗戦をエネルギーに自分に徹しく三年間をラグビーに打ち込んでほしいのです。様々な誘惑に負けることなくラグビー道をつき進んでほしいのです。東宇治ラグビー部員ならそれができると思います。OB会もかかを惜しみません。

がんばれ 東宇治ラグビー部

今は痛文となったOBより一言。

<お世話になった先生>

東宇治高校ラグビー部10周年にゆせて 尾崎哲朗

ラグビー部、十周年 おめでとうございます。

十年前の私は、バレー部に在籍。大学入学後、市原先生の勧めで、ラグビーを始め、四回生の教育実習でラグビー部を指導していたのを切っ掛けに、夏合宿にも顔を出すようになります。今回、十年誌に原稿を書くことになりました。

私は先に書いたように高校でのラグビーの経験は体育の授業だけ。先輩の自分から大学の四年間、ラグビーを続けたということは、今の私をここへ導く大きな自信とあります。

一度心に誓ったことをやり直す喜びを手えてくれる、絶好のスポーツだと思えます。最近ラグビーブームですが、そんな華やかさとはわりがらありません。本当に勝つためには地道な努力の繰り返しにあると思います。またそれを耐えることも価値のあるものだと思います。

東宇治ラグビー部の今後の活躍を期待しています。



“ラグビー好きなんもん、集まれー!!”

現在のラグビー部が、最初、同好会として、産ぶ声をあげたのは、東宇治高校創立2年目のことでした。

サッカー部だった官本勝義先輩(初代OB)のがちりした体格に目をつけた市原興治先生(初代顧問)は、官本先輩に声をかけ、その他、「ラグビーをやりたい」という生徒をあつめて、暗くなるまで、毎日練習した。

部としては、まだ成立してはいなかったが、部員たちの努力は、どの部よりもつよく、団結は硬かった。

東宇治高校ラグビー部の歴史は、今、まさに、第一歩をふみださうとしている……。

“私とラグビー”

一期生 官本勝義

私がラグビーもやるようになったのは、高校2年の夏。当時ラグビー部の顧問であった市原先生に勧められたのがきっかけです。ラグビー部が産ぶ声をあげたその時でした。基礎体力をつけるため、毎日走らされていたことも今も思い出します。

私にとって、高校ラグビーは大きな意義がありました。私はラグビーを通して人間努力すれば何らかの成果が得られるという自覚をもつことができました。そして、体力はもちろん、精神力や判断力、忍耐力もつき、得るものも大きかったように思います。

私は、ラグビーの在り方には2つある様に思います。そのうちの一つの、プレイを目的としたラグビーをみなさんにはやってもらいたいです。

ときには、勝つことも必要ですが、スピードとパワーを自由に駆使出来るだけの頭脳と、判断力を備えた「ベストラガー」になって下さい。



“エッハム！俺ら、ラグビー部や！”

同好会として誕生して1年、
ラグビーをしたい。先輩たちが入り、部として
認められるようになった。しかし、日頃努力を欠か
さなく、尚、それ以上にみんなの内に部意識が
燃えはじめ、今度は、「試合をしたい、自分たちの成
果をためたい」という気持ちがかたまった。

そして... 待望の 初試合

昭和51年5月18日

対 乙訓

0 - 37 <敗退>

* 結果は、おしくも敗退ではあ
たが、みんなにとっては、明日への
活けとなる貴重なバネとな
った試合だった *
*

みんなの夢の 初トライ

昭和51年7月4日

対 朱雀

8 - 30 <敗退>

初トライのポイントガードは
助供明 (OB 3期生) だった
初トライの壁の次は、初勝利
の壁であった。

<初めへの合宿>

昭和51年8月26日 ~ 8月29日 3泊4日

兵庫県 神崎高原にて

参加者：19名

洛東・尾崎・栗山・洛北と合同

初の公式戦 出場!!

第8回 京都府高校ラグビー秋季大会

1回戦：昭和51年9月11日

対 栗山

8 - 10 (敗退)



🐰 やたあー 初勝利 🐰

昭和51年9月25日

対 大谷

22 - 8 <勝利>

このいきおいで、また次の目標を
めざし、みんなの足並はそろっ
た。 あはらい。

第50回全国高校ラグビーフットボール大会 京都予選

クラブ: 吉祥院 G

一回戦:

昭和51年10月23日

対 城南

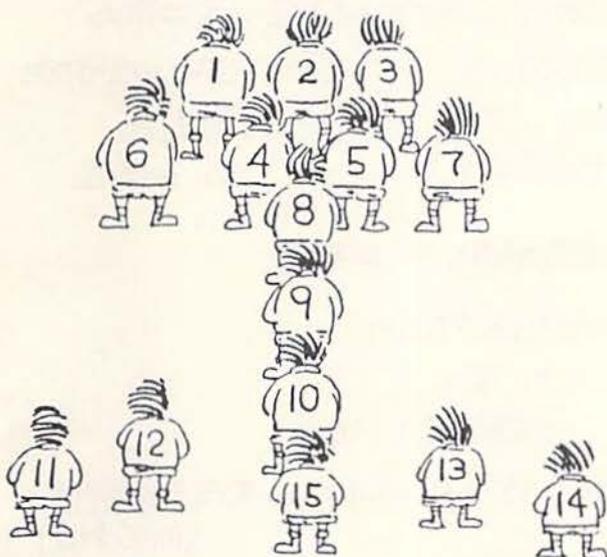
56 - 6 <勝利>

二回戦:

昭和51年10月31日

対 東山

0 - 58 <敗退>



000
1977

"努力 みのって……"

創部2年目。

同好会的な余波も、おちつき、"117"らしさを定着させた年代でもある。

"自分達の117は、自分達でつくり上げる"という日頃の姿勢が、効を奏したのか、2年目にして8強入りという、快挙を成しとげた。

第29回 近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府予選 (同志社G)

一回戦 昭和52年2月12日
対 嵯峨野
3-36 敗退

第30回 京都府高校総合体育大会 (吉祥院G)

一回戦 昭和52年5月15日 二回戦 昭和52年5月22日
対 平安 対 同志社
18-0 勝利 16-36 敗退

第9回 京都府高校ラグビー秋季大会

一回戦 昭和52年9月11日
(東洋台G) 対 葛山
<資料不足> 敗退

第57回 全国高校ラグビーフットボール大会 京都府予選 (同志社G)

一回戦 昭和52年10月30日 対 本津 64-0 勝利
二回戦 昭和52年11月5日 対 桂 12-0 勝利
三回戦 昭和52年11月12日 対 花園 0-90 敗退
(渾々決勝)

バストをやりこめて・・・

今後、一層の努力と、経験の必要性を感じ、大きな活力源と化した。

《卒業生》

板山幸治 (主将・14 W・T・B)

チームNo1のポイントガード
市原先生 転任後、東宇治高校ラグビー部の顧問として帰郷

橋本 義田 (1 FW)

トラウナーの馬力をもつFWのリーダー

藤元 康司 (2・FW)

気まじめなフッカー

安東 宣之 (3・FW)
初得点のキックのPKをゴロ回した。

立石 昌之 (4・FW)

火照える男、モールのラックの芯

山中 光信 (5・FW)

頭脳フルに得点である。

竹島 利幸 (7・FW)

キックキック得点のランカー

西岡 敬文 (9・SH)

口数の多い大型ハーフ

片山 川貞一 (12・C・T・B)

脱しんぼろタカトルが得意

中丸 ゆかり (旧姓・村田)

(マネージャー)

東山高校に身売りにしたマネージャー

現在東山高校監督婦人

高山 富美 (マネージャー)

先古屋に身売りにしたマネージャー



“創部十周年を迎えて”

二期生 板山幸治

二期生である私達が東宇治高校に入学し、ラグビーも知らない者ばかりが、「どんなスポーツや、おもしろそうやないか。」という単純な発想から同好会を結成し、ゴムのラグビーボールとバスマットボールを使い迎くのあき地で練習したのが最初でした。翌年、クラブとなり市原先生も監督に迎え日増しにクラブらしくなっていきました。しかし、試合をしても負けてばかりでした。その連敗の中でキムが初めてトライをした時の光景を今でも克明に覚えています。FWが一丸となり、ゴールラインを越えボールを押さえた時、チーム全員が飛び跳ねて喜びました。記念すべき初トライでした。東宇治ラグビー部は京都の強豪と呼ばれるまでに成長しました。大学では、ラグビーの厳しさを喜びを味わいました。そして、大学卒業後、市原先生に代わり母校の監督もさせてもらい、情熱を注ぎ、私にとって最高の日々でした。私は今ラグビーはできない体になりましたが永遠にラグビーを愛する心は持ち続けるでしょう。

“創部十周年を記念して”

二期生 中丸 中かり (旧姓 柘)
<マネージャー>

同好会時代、部員の中には、ジャージに道をつける為、わざと水たまりの中に寝転んだり、長い間洗濯もせずに着続けたりする人がいたりして、周りの人には、「汚い、臭い」と言われていたラグビー部にマネージャーとして入部したのは、創部して三、四ヶ月たった頃でした。

おもしろい話ですが、それまでレベルも知らなくて「トライで何点、入るのか」さえわかりませんでした。そんな私ですから、失敗談は数知れません。脳震盪をおこした部員に初めて接した時にはおろおろするだけでしたし、負傷して医者に行きに行く前に、余計な応急手当をして、叱られたこともありました。そんな訳で、お世辞にも「頼りにするマネージャー」とは、決して言えません。最後になりましたがラグビー部の今後の活躍をますますお祈り申し上げます。

1978

「1に努力 2に努力」

ほんとうにこの言葉のぴったりの年であったといえるだろう。新入部員の数を増やして

南山城大会が公元戦のほかに加へて、東宇治ラグビーの別も、次第に広まってきた。

第29回近畿高校ラグビーフットボール大会

京都府予選 南山城 G.

昭和53年2月11日

1回戦 対城南

65 - 0 <勝>

昭和53年2月18日

2回戦 対木津

- <敗退>

※資料不足のため

得点はわかりません

第31回京都府高校総合体育大会

ラグビーの部

※吉祥院グラウンド

昭和53年5月13日

1回戦 対山城

21 - 0 <勝>

昭和53年5月21日

2回戦 対洛北

13 - 44 <敗退>

第1回南山城大会

昭和53年6月17日

1回戦 対城陽

18 - 15 <勝>

昭和53年6月24日

決勝戦 対

※城陽グラウンド

※資料不足のため対戦相手、得点はわかりません

夏季合宿

昭和53年8月17日～8月21日 4泊5日

兵庫県針伏高原 針伏高原グラウンドにて。

参加人数 27名+2名

第10回京都市高校ラグビー秋季大会

昭和53年9月10日

1回戦 対桂
10-8 <勝>

（於 吉祥院グラウンド）

昭和53年9月17日

2回戦 対西京高
12-14 <敗退>

第58回全国高校ラグビーフットボール大会京都市予選

昭和53年10月21日

1回戦 対朱雀
4-42 <敗退>

((卒業生))...

塩見靖秀 8 <ナンバーエイト>

近くEはすし 遠くEは子キッカー

磯崎 聡 15 <フルバック>

とらえたヤンキーを
倒すタックラー

片山晴え 9 <スクラムヒーロー>

よく傷に泣いていたスクラムヒーローの
“ハルチン”

助 供 明 10 <スタンド
オフ>

ループの得意な
スタンドオフ

Summer Camp in HACHIBUSE



創部10周年によせて

53年度卒業 塩見 靖秀

もう10年たったのですか。早いものですね。監督さん、市原先生、板山先輩、大橋先生と三代にわたり、そのたび“東宇治高校ラグビー”一部が一回りも、二回りも大きくなっていくような気がします。新聞、雑誌等びんの活躍ぶりが載るたびに一喜一憂し、社会でラグビーを続けている私にとってほげみとなり元気づけられます。

さて、私にとってラグビーとはまさに“楽”と“苦”の備わったものであるといえます。練習は、確かに苦しいものですが、一つとトライを取ったときの喜びはラグビーをやったことのない人には決して味えないものでしょう。“苦”は簡単に見つけられても、“楽”を見つけることは、なかなかむづかしいです。ラグビーを続けていることが“楽”なわけではありませんか。

現役の皆さん、早く“楽”を見つけ、OBと現役の“楽”と“大会”を莫大に楽しませませんか？

見附 明

3期の卒業生は、みなさん同じ存知の通り4人という大変小人数です。同期のものが、たくさんやめていく中で、最初の4人が最後まで残ったことが印象的です。ボールを持たない基礎礎体カフスリから、足場の悪いグラウンドでの練習、都カントリーへの走りこみ、そして合宿と、体力を種み重ねて数々の試合をしました。そして最後の試合では、1回戦で負けましたが、ある意味では、みんな満足感でいっぱいだったと思います。

今ふり返って見るに、ラグビーというスポーツは一つのトライをするのに15人全員が、身を犠牲にして攻防するところが醍醐味だと思います。

そういうところにあこがれ、3年間ラグビーに熱中してしまいました。

1つの人生の中で、自分が何か一つ（ラグビーに限らず）夢中になれるものを、もつと言うことは、非常に大切なことだと思います。つい先日OB会（1期～9期）が何年かぶりに行われましたが、“先輩のあのときは、こうだった。”と毎年、毎年同じ話題を扱っては、ありますが、そういう当時の情景を、酒を酌み交わしながら、話したりするのむづかくなが楽しいものだと思います。

最後に後輩たちの健闘と東宇治ラグビー部の発展を祈り、この文章を終ります。

000
1979

“ 全力で押し、全力でぶつかり、全力で走った。”

昭和54年9月

秋季大会で、我がラグビー部は、Best 4という
大きな偉業を成した。

これは、今も尚、破らぬことのない、東宇治ラ
グビー部の記録である。

そして、同年、11月の全国大会においても、Best 4の座を守る
という榮譽を得た。

第30回 近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府予選

昭和54年2月3日 一回戦 対同志社 4-66 敗退

第32回 京都府高校総合体育大会 ラグビーの部 (吉祥院G)

昭和54年5月12日 一回戦 対鴨沂 22-4 勝利

” 5月20日 二回戦 対東山 0-42 敗退

第2回 南山城大会 (対人巻の為2年-4参加。A:13年干4)

昭和54年6月9日 A対城南38-0勝。B対東稜 0-14敗

6月16日 A対城陽58-0勝。B対田辺 8-60敗

6月23日 B対木津 0-16敗

6月30日 決勝戦 A対田辺 10-20 敗

優勝は目前にして田辺に屈し
準優勝となる。

第11回 京都府高校ラグビー 秋季大会 (吉祥院G)

昭和54年9月8日 一回戦 対木津 40-4 勝利

9月16日 二回戦 対田辺 22-6 勝利

9月22日 準決勝 対東山 22-20 勝利

9月29日 準決勝 対花園 6-28 敗退

《古川修久(U-W) 見玉浩臣(H-B)が高校優秀選手に選ばれた》

第59回 全国高校ラグビーフットボール大会 府予選 (吉祥院G)

昭和54年11月3日 二回戦(シード校の為) 対京商 26-12 勝利

昭和54年11月10日 津波 対山形野 20-0 勝利
 11月17日 津波 対花園 0-40 敗退

試合には惜しい
 敗戦であった。FWが特
 力を発揮して試合を
 深く見守る。女の心だが
 あと一歩。言葉を
 欠いた。
 —当時某新聞刊

古川修久 (6. FW)
 (通) Best4で勝ち得た Ca?
 (三) 何から頭髮化粧品の会社員。
 何のシニアをやる。

植村和幸 (1. FW)
 練習前にアリテニAを20粒。
 以上ものどわのわからない
 副キャプテン。

藤井義樹 (3. FW)
 練習の癖りつとりとゼーレを
 毎日のようにのんじていた。

竹島正明 (5. FW)
 なぜか、高校2年の時、一時期女を
 見かけおぼえていた。今は「おぼえんの竹ちゃん」
 と呼ばれている。

井本厚志 (9. S.H)
 昔はセコウ10井本の元でいた。
 今はマラソンで「スパー青年(?)」に所属
 している。

児玉三吾臣 (10. S.O)
 試合の前には「今日は井本と女」
 とめんなと言っていました。
 今は酒を飲むのが大好きな南大ラガー
 としてがんばっている。

土坂洋 (13. C.T.B)
 昔は髪が長い青年でした。現在は大学が
 東京だからせいかおまけの青年(?)に所属している。

定村純也 (15. F.B)
 Dから出る言葉は「おもしろくない」と
 「麻痺」でした。

藤村佳康 (マネージャー)
 下級生の死かしの的 レア7ジ

持田裕美 (マネージャー)
 一見おどろかすほどのモテ

長谷川若子 (マネージャー)
 見るからにやがましい ハセ



ラグビーとすばらしい仲間

古川 修久

“ラグビーをやった。”といふも思う。それもこれも、ラグビーを通じて
通じて良き仲間ができたからだ。今でも新年会、19-サー、忘年会
と何か、みんなで会う口実を作っては、会ってワイワイお喋りしている。仲間の
結婚だとなれば、みんなを集って手紙やプレゼントを作ったり...。

高校を卒業しかけて6年になるが、卒業当時は盡した意味で
ラグビーを置いておきたと思っていたが、今ではラグビーを通じて良き
仲間が出来たことが一番おぼろしいことだとも感じるようになった。

ラグビーは本当に素晴らしいスポーツだも思う。そこにはいい意味で仲間
意識というものがある。とし全員が主役であり全員が脇役であるとい
うのもうそでもない。そういうものがあるからこそ、いまでもラグビーが好
みのであり、また、本当にすばらしい仲間とめぐり会えたのだと思う。

ぼくがこういう気持ちをもつたと同じように、今ラグビーを止めている人達もあと
“ラグビーを置いておきた”といつか思う時が来るだろう。(もしもしたら今、
ラグビーなんかもうやりたくはないと思っている人がいるとしても...)だから
精一杯、最後までがんばってほしいと思う。

東京自治高ラグビー部の御健闘を御祈り致します。

～素直にすばらしい仲間のお礼です～

1期マネージャー 持田裕美
長谷川浩子

12月1日『早明戦』 相も変わらず2人して、声を張り上げ奮戦
しながら、私達の高校時代を思い出せる。

もう9年前、ラグビー部の門を叩いた時、市原先生に話した。「おめでとう、
男のあこに入、たんとやうか」という言葉が強烈に心に響いている。それと
同時に「マネージャー3年間や、こいたら、男を見る目ができる。」と言われた。その
言葉、高木を卒業代にはおからなかったまま卒業した。

始めは、途切れたからであつたかもしれない、もう1人のマネージャー“ムラジ”の持田
19-サーの準備の為に集まる様になった。その時から、どこからか? (私達として)毎
月の遊ぶ70グラウンドが皆に並られ、焼肉19-サー、花火大会、第1恒例19-サー
屋以外にも、おしゃべり会う様もなつた。そして昨年の夏、みんなの走っている姿
が、見たい。」と又、又、私達が言いつ、みんなが“その言葉に、重みを出して来た”
JD5の誕生である70グラウンドを走り回るみんなの姿。やっぱり素直に感謝
この卒業後のつぎの、市原先生がおっしゃっていたことおぼろしく分けてきたし。
高校の3年間、ラグビー部マネージャーをやった基が本当に良かったと思つて。
そして何より私達を自分達の仲間として大切にしてくれているみんなに感謝
しています。アリガトウ。これからよろしくお願ひします。

1980

初の 春の遠征

たのしい うれしい おぼろしい 恐ろしい
 がまぼろし 苦しい ぼんざーい! おや?!

創部5年目 — 毎年入ってくる新入部員の数もだんだんと増えるのと同比例して、2、3年生の先輩意識も増加していった。この年、初めて、春の遠征として広島へ行き、一味ちがった相手と共に闘い、力をつけていった年でもある。

第3回 南山工成大会

昭和55年6月4日 1回戦 (田辺G) 対 東和菱 60-12 勝利
 昭和55年6月21日 2回戦 (城南G) 対 城南 12-24 敗退
 昭和55年6月28日 3回戦 (城南G) 対 木津 36-4 勝利

3位決定戦

昭和55年7月5日 (田辺G) 対 城南 58-10 勝利
 結果... 南山工成大会では3位でした。

第2回 東京都立校ラグビー秋季大会 (吉祥院G)

昭和55年9月19日 1回戦 対 立命館 (奪権のための不戦敗)

昭和55年9月20日 2回戦 対 田辺 20-0 勝利

昭和55年9月27日 準決勝 対 同志社 0-8 敗退

—あの同志社に2トライ差!

ベスト8進出!

Rugby部にこんな大きな自信と栄冠が与えられた。

— 第60回全国ラグビーフットボール大会 東京都予選 —

昭和55年10月25日 1回戦 対 桃山 58-0 勝利 (聯合G)

昭和55年11月2日 2回戦 対 洛東 8-20 敗退 (吉祥院G)

栗田晴可 (7. F.W)
Cap.ありチーム①のメンバー
雨の日も風の日もがんばった…?

西村智達才 (12. C.T.B)
81Cap. チーム①の秀才だった。
しかし、いつも泣きだしていた。

糸井 充央 (2. F.W)
チーム①の変態だった。
でもフッキングは京都一。

高山悟 (5. F.W)
チーム①のプレイボーイ。
ワガに泣いた。

藤田 三孝 (3. F.W)
チーム①の???
貴重な70フォロ

松田敏之 (13. C.T.B)
チーム①の美男子だった。
彼が走ると女がふり向き向く。

植村孝明 (14. W.T.B)
チーム①の真面目な男だった。
でも「しんげ」堅めたみたい。

西川俊一 (11. W.T.B)
チーム①の俊足だった。
よくTRYをしにくれたが。

三浦 幸三 (8. F.W)
チーム①の秀才男。
試合と練習ではまたく違った。

加藤 勇造 (9. S.H)
チーム①の努力した男。
でも物が多く重い男。

紫田 晃司 (6. F.W)
通称「フィン」。ワサビの数は
誰にも負けない。

大平 哲夫 (9. S.H)
チーム①の小型ワガ一
ワガに負けずよく頑張った。

小林 誠 (1. F.W)
「正体不明の男」
現在 自衛隊官。



昭和55年
→
広島遠征にて



ラグビーと私

栗田晴可

高校を卒業して早くも五年が過ぎようとしています。しかし五年たってもあの苦しい練習、試合で勝つ喜びと、暑い合宿、どれをとっても鮮明に思い出出すことができます。私にとってラグビーは、いや東宇治高校でラグビーをやった事は非常に大きな物にして今残っています。私、一生忘れることのできない大きな思い出となるでしょう。後輩諸君も、東宇治高校でラグビーをやっていることに、埃をもってほしい。東宇治は、他の高校とちがうということを感じながらラグビーをしてほしいと思います。

無形の宝物

植村孝明

東宇治高校ラグビー部10周年おめでとうござります。この喜びを皆様とともにわかちあえますことを、たいへんうれしく思います。さて、我々うち年度卒業生もOBの中からは、古株になってしまいました。みんな、そろそろオッサンになりつつあります。ちなみに私は現役当時からオッサンでした。でも「現役三年間の思い出」は、今も一人一人の心のアルバムに鮮明に残っています。そしてこれは今後も決して色あせることはないでしょう。この三年間は、OBとなりえたものだけに贈られる無形の宝物なのです。今後、一人でも多くの方がこの宝物を手に入れた卒業され、OBのスクラムに加わられることを願ってやみません。私達もしっかりバインドしていきましょうのでよろしくお願ひします。大きな大きなスクラムを、東宇治高校ラグビー部の歴史がある限り組み続けたい。そう私達は思っています。



" One for all,
All for one !! "

この年代もまだか毎年、"十人十色"の部員たち
が、このラグビー部に集まってくる。本当に様々な個性を
持ち、様々な特性をもっている。

しかし、そのばらばらな集団を一つにおさめるものは、唯一
ラグビーであった。"One for all, all for one."は、これら
ラグビーにとって、"暗黙の基本精神"と言えるのでは、ないか？

第32回 近畿高校ラグビーフットボール大会 ~京都府予選~

- ・1回戦 昭和56年1月24日 対朱雀(東宇治G) 38-0(勝)
- ・2回戦 昭和56年1月31日 対同志社(同志社G) 0-62(敗)

遠征 (免知県地方) 2度目の遠征... 昭和56年3月30日~4月1日
(行程)

- ・30日 京都—名古屋 対 東立西陵商業高校、岡谷工業高校
0-106(敗) 32-18(勝)
- ・31日 名古屋—トヨタスポーツセンター 対 市立関商工業高校 4-56(敗)
- ・1日 名古屋 対 東山工業高校 14-32(敗)

第34回 京都府高校総合体育大会 (吉祥院G)

- ・1回戦 昭和56年5月10日 対乙訓 38-0(勝)
- ・2回戦 昭和56年5月16日 対向陽 42-10(勝)
- ・3回戦 昭和56年5月23日 対伏見工 3-92(敗退)

第4回 南山城大会 (宇治新築権のため、A・B 2チーム参加)

- ・1回戦 昭和56年6月6日 A:対八幡 82-6(勝)
- ・2回戦 6月14日 A:対城陽 24-0(勝) B:対東陵 0-22(敗)
- ・3回戦 6月20日 A:対宇治(棄権) B:対城陽 16-38(敗)
- ・4回戦 6月21日 A:対東陵 74-10(勝) B:対八幡 16-0(勝)

A. 全勝で決勝戦へ 6月27日 対田辺 50-0(勝)

南山城大会
初優勝!!

合宿

昭和56年8月13日～17日 4泊5日

兵庫県 針伏高原にて... 桂・城陽長尾・布施北高と合同

第13回 京都府高校ラグビー秋季大会

- ・1回戦 昭和56年9月13日 対鴨折 3-0 (勝)
- ・2回戦 9月19日 対東山 0-14 (敗退)

第61回 全国高校ラグビーフットボール大会 ~京都府予選~

- ・1回戦 昭和56年10月25日 対八幡 90-0 (勝)
- ・2回戦 10月31日 対嵯峨野 18-12 (勝)
- ・3回戦 11月7日 対花園 0-62 (敗退)

<卒業生>

小林正宣 (FW・6)
主将・チームの中心となる
けん引者

友沢 泉 (FW・7)
副主将・ハードなフ
レーを誇るタフマン

鈴木天弘 (FW・1)
巨体をやまがり Pretty Smile

持田雅司 (FW・2)
鼻もまげアも果敢にフックル

杉本善正 (FW・3)
おじさん Powerが輝く

松本 聡 (FW・4)
目で相手を威圧する

奥村 進 (FW・8)
どんなタックルも校のトップ
にはたじたじ...

荒井 久治 (SH 9)
ジョークがジョーズでセコ
トライ

志水 啓二 (SO・10)
いつも元気な司令塔

板山 裕次 (CTB 13)
切れのウィズタックルの秘密は人な
みはつれた短かい足である。

山田 大輔 (WTB 14)
あんまスティーブはさうがにぶちかま

藤元 康博 (FB 15)
意外性を秘めた男

<マネージャー> 花田和巳・矢倉志臣
石垣裕子・谷口順子・小山恵子



創部10周年によせて。

小林 正宜

今回、東宇治高校ラグビー部創部10周年ということで、誠におめでとうございます。私は現在社会人として、毎日仕事に励んでいます。が、高校3年間ラグビーをやっていた本当におかたと思うことがよくあります。それは、ラグビーをやった、肉体的にも精神的にも、私自身非常に鍛えられ、根性、というものが身についたからです。だから、社会に出て、苦しい時でも、この根性を生かして乗り越えることができるからです。このようなことから、私は、ラグビーをやることによって自分自身プラスになるものを得ました。ですから、後輩の皆様たちも、高校生活3年間、ラグビーをやることによって、何でもよいから自分自身プラスになるものを得てほしいと思います。

最後に、創部10周年にあたって、監督様、部長様に心から感謝いたします。

小山 恵子

創部10周年おめでとうございます。私達が記念誌を造ったのが、5周年、いつの間にか倍になっていて、その時の流れの速さを感じては居られません。思えば3年間のほろもせず雨の日も雪の日も毎日部員と一緒に、ヘドタッシュのボールをまわしたり、スクラムマシンのおもしろいふたりと他校のマネージャーと比べると多少ユニークだった気がします。

私達マネージャーは人数のことで1回プレッシャーを感じてはいたけれど、市原先生をはじめ、先輩方、部員の皆さんの暖かい理解の下で、最後までみんな頑張ることができました。

卒業して何年か経つ今も試合の組み合わせや、結果等知らせていただいたりすると後輩のみなさんが頑張っている様子が何となく安心すると共にとても嬉しい気がします。このクラブの大きな夢は、先輩方の代わりにラグビーのボールのようにつないでいかれるように思います。

そして、これをTRYできるのは、やはり現役の皆さんでしょう。

東宇治ラグビー部の皆さんこれから頑張ってください。

いつまでも応援しています。

1982

「ラグビーは、ルールのあるけんがや！」

——とけんがが言っていた。

本当に、その言葉通りに思える。ラグビーには、けんがが
つものと言っても過言ではない。けれど、けんがをしたがらと
言え、おじけづくものは、ない。ラグビーは、また、けんが以上
に熱意を持ち、人をどっけにしていけるかもしれない
この年も、また、ラグビー病にかかる勇気あるけんがいた。

第33回近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府選抜

1回戦 昭和57年1月30日 対大谷 8-3 勝利

2回戦 昭和57年2月 0日 対洛北 0-26 敗退

北陸地方遠征

昭和57年3月24日 対石浜工業 4-20 敗退

対石浜工業 8-16 敗退

昭和57年3月25日 対羽咋 0-36 敗退

対石浜工業 4-00 敗退

対羽咋 4-29 敗退

昭和57年3月26日 対津幡 8-0 勝利

第35回 京都府高校総合体育大会

1回戦 昭和57年5月15日 対土命館 48-4 勝利

2回戦 昭和57年5月23日 対洛水 28-14 勝利

3回戦 昭和57年5月29日 対同志社 0-93 敗退

第5回 南山城大会

昭和57年6月13日 対洛水 16-4 勝利

6月19日 対城南 18-10 勝利

6月20日 対城陽 24-0 勝利

6月26日 対久御山 4-8 勝利

3回戦 6月27日 対田辺 20-26 敗退

※ この年代の資料が、南山城大会以下不足では。ので
秋のファイナル戦について、記述できませんでした。

申しわけありません

〈卒業生〉

坂本 真規 (7.F.W)

崩れかけたチームを立派にまとめた
名キャプテン。
金銀を折っても頑張り続けた根性
の持ち主。ヒットスレットが多いのが目立ち。

藤村 晋志 (12.C.T.B)

物静かだが甘いマスクのイケメン
キャプテン。U.F.O ストリックの
美人マネージャーをおかしくも愛する。

吉見 正彦 (2.F.W)

ちびと顔の程ど笑顔がたまにはおじん

幸本 貴 (9.S.H)

“甘子”が十八番の界前の
ひらきもタツクにはおもしろい
スラムヒーロー。サウザンに登場。

松本 言十夫 (9.S.H)

17が一番キムで99がホビーヒーロー
優しく女の子から人気がありました。

猪木 篤志 (11.W.T.B)

ちびとスピード感に合わせるイケメン
よく3年間のんびりしました。

井出 貴之 (13.C.T.B)

我が方のアツキ合宿帰りのアツキ
こはいつも披露してくれました。
人に強い心と熱い心が持ち主。

新下 徹 (15.F.B)

目らバズがタツキおもしろいアツキ
美人には目がない。

西由 恵子 (マネージャー)

いつも笑顔のかわいらしい
マネージャー

石川 玲子 (マネージャー)

元気でいるアツキがどんくせい
バツキをもつて走るの法得者。



“創部 10周年によせて”

藤村 昌宏

は、さき言つて、3年間ラグビーをやった中で一番しんどかったのは1年の時だ。た。それまで、勉強勉強のため、ろくに運動もしていなかったのにいきなり激しい運動をしたのだから、一年の始めの頃なんか、体中のあちこちが筋肉痛となり、それがひどくなって、歩くこともできないこともあった。練習にやると慣れさせたのが6月くらいだったと思う。もともと体はそんなにがんじょうな方ではなかったので、3年間、いろいろキガに悩まされた。1年の終わりに、左足首関節炎になり、2年の時には、左肩の脱臼、左足の膝のじん帯も切れたりして、長い間、クラブを休んでいた。今でも、左肩がちょっとした拍子に脱臼するし、左足もじん帯が切れたままでもうラグビーなどできる状態ではない。卒業して早くも4年目になるが、クラブでのこうした体のこしにフイアは何の悔いもない。そんなことより、3年間という間だけでも、激しいラグビーというスポーツをやれたというだけで満足しています。今の1年生もしんどいとは思ふ。これから、夏に向けていろいろ練習もきつくなるけど頑張、て欲しい。一年だけでなく、二、三年も練習だけは休まず、まじめに取り組んで欲しい。

“創部 10周年を記念して”

西由起子・石浦玲子

私達の高校時代の思い出というと、やはり殆どがクラブのことにあります。「人のプレーを見ていて何が楽しいの？」とよく言われ、思い悩んだこともありました。真冬の寒さに挫折しそうにもなりましたが、でも最後までなんとか頑張りました。大学生活は、ラグビーに無関係でしたので、就職活動の時はマネージャーの経験を生かすおぼろげに奮起したのですが、全く無縁の仕事をする事になりました。ですが、元ラグーマンという方が割合多くて時々楽しかった事や辛かった事などを思い出しています。一番、思い出に残っているのは夏合宿でしょう。皆さんあの頃は私達の汲んだ少々汚いバケツの水を愛飲して下さりましてありがとうございました。あの頃、部員の方々はみんな仲が良くて羨ましい限りでした。今後共その輪を崩さず、来長くOB活動も続けていて頂きたいと思ひます。

00-0
1983

ラグビーチーム到来!

歴代最多部員数を記録!

1学年に17人という部員数は、歴代初であり、ラグビー部も、はじめのことから言えば、かなりの大盛況である。「あの9日には行って走らんだっ!」—そんなドラマも過去にあった。しかし、そんなドラマチックなもの、現実はずれた。下積みの下積みを重ねた、地味なものだった。そんな中、ラグビーに魅了された部員たちは、ひたすら努力した。

第34回 近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府予選

1回戦 昭和58年1月22日 2回戦 昭和58年1月30日
対 乙訓 対 洛北
52 - 0 勝 10 - 10 抽選負け

遠征

昭和58年3月31日 昭和58年4月1日
対 桂 対 津山 0 - 8 敗
8 - 6 勝 対 誠志館 16 - 16
対 桂 10 - 4 勝
昭和58年4月2日
対 津山 6 - 8 敗
対 桂 10 - 4 勝
対 誠志館 8 - 4 勝

第15回 京都府高校ラグビー秋季大会

1回戦 2回戦 昭和58年9月11日
対 塔南
10 - 6 勝
3回戦 昭和58年9月17日 4回戦 昭和58年9月24日
対 山城 対 同志社
51 - 4 勝 3 - 32 負

第63回 全国ラグビーフットボール大会 京都府予選

1回戦 2回戦 昭和58年10月15日
対 北校
54 - 0 勝

3回戦 昭和58年10月29日
対 伏見
6 - 48 負

《卒業生》

- 山本弘和 (13. C.T.B)
オールラウンドプレイヤーの名選手
いつも故障じ泣く。
キャプテンとしては今のヤツチャン。
- 大森 一人 (4. F.W)
頸椎捻挫じ泣いた。右副キャ
プテン。オーモ。
- 豊島 浩二 (1. F.W)
首の強エビのNo.1. トヨハン。
- 藤浪 晃 (2. F.W)
チビでもガッツコ
根性たつた負けたら
- 辻 尚宏 (3. F.W)
ボールも持てばほな
まないなオヒロ。
- 高橋 亨 (5. F.W)
モールの強いキン
肉マン。アキラ
- 石野 智也 (7. F.W)
超過激人間。味方も敵も
関係なし。
- 小野 雅智 (9. SH)
奇人変人 大集合 いつひ楽し
いオノヤン。
- 林 宏樹 (10. SO)
スローキッカー 1人びつ、込む
ヒロキ。
- 大杉 雅之 (12. C.T.B)
巧みなステップ。少しためてる
オオスキサン。
- 福島正幹 (8. F.W)
鋭行ウイング。パワーはあるが
手抜きが目立つ フックン
- 小山 孝次 (6. F.W)
タックルのすばらしい名フラインカー
- 大塚 晃弘 (5. F.W)
重量級から転量級へシェイフ
アッポ
- 中村 克也 (15. FB)
ボールも持てばナイストライ。駿
足 持久力のない頭脳アインのカッ。
- 井本 賢二 (13. C.T.B)
バスケットステップ。オールラウンド
プレイヤー。イモッヤン
- 高矢 勉 (11. W.T.B)
体の堅い 駿足ウイングホ...ホ
- 熊本 好 (14. W.T.B)
タツナ際の魔術師。ホイ、ス
ル役のヨツミ。



ラグビー部の思い出

山本 弘和

学校を卒業して早くも二年の時が過ぎた。ふとクラブをしていた頃を思い返ると、様々な事が、ついこの間の事の様に思い出される。一年の時は創部以来の市原先生だった。厳しくもなぐられた事もあるが、おもしろい先生でもあった。先生の三年生は神様であり、二年生は人間、一年生は、奴隷である。”の言葉は印象が強い。毎日のボール磨きはつらかった。雨の日は、自分のボールがでるだけ使われたいように祈っていた。毎日毎日 走ればかなりの練習は過酷だった。雨の日も雪の日も、雨の日なんてのは、もう大変じ上から下まで全身ビショビショの泥だらけで皆やけくそでやっていた。先輩には、いつも叱られ、キックダッシュの嵐、くそ、と思っても怖いので、ニコッと微笑み返した。夏の合宿は、汗と涙と土にまみれて、もう真黒、皆の笑った白い歯がステキだった。二年になる頃は、すっかりクラブに慣れ、手を振きつむ充実していた。しかし、俺が主将になるという一大事が起きた。しかしすぐに大アがとじて、半年の間現役を退くことになった。創部以来の不祥事である。手板きのやあらわい異名もつけたこの俺も、全然、クラブがでるなかつたのは、丁々がにこにこした。こゝにはラグビーがしたくなるなんじと。総体で復帰、目も見張る活躍でもないが最後は、全国大会の予選の抽選でバッチン見事に伏エゾーンを引き上げた。皆のうらが怖かった。当時は、嫌だった事も皆が集まれば、楽しい思い出となり 笑いに変わる。怖かった先輩は今もやましい。東宇治ラグビーで得た友情、先輩、後輩の師弟愛、先輩方の急は私の人生のかけがえのないものもあり、これからは受けついでいて望みます。今後はOB会にて皆様にお会いしたく思います。青春ももう一度と...

ラグビー部の〈伝統〉

福島 正幹

人間が1つの集団を作り、そして年月が過ぎると、そこに他の人から
見るとらしさ(文化)が出来ているのがわかる。大きくは一つの国家
であり、各々の都市、会社、学校など色々あるとすれば、東宇治
ラグビー部(O.B.先生含)も学校内のクラブ活動としての1個の
集団であるから、やはりらしさ(文化)というよりも〈伝統〉が
出来ている。しかし、スポーツの場合で使う。これは実力の尺度
と云えるような物であるから、東宇治は、決して「弱者」とは
京都の四強に、最後は常に、伏見工、花園、同志社、東山が、
残るのは何故か。仮に、ある年、これらの中の1つと東宇治が
同レベルだとしても結局、全国予選に試合をすれば私は
負けると思う。逆に東宇治が常にレベルが低いチームが同レベルに
なるとしても、勝つ終るだろう。これは色々な要素が考えることが
できるが、一つに「毎日はただ練習してきた。そして先輩達が常に、
勝ってきたのではないか。負けるのではない」と思っているが、根底に
あるのではないかしら。私が私の思う〈伝統〉とあるのは土の
レベルのチームを打ち破るにはどうすればいいかとなるとこれは風が吹け
ば桶屋がもつかる方式で、OBチームの活動(試合)を活動にすれば現役
チームが強くなるという方程式が私には成り立つのです。OBチームの練
習は、各々自分であるが、場所所はやはり母校しかない。だからついでに
先輩の指導にあたる。これが「OBと現役の親密化」につながるから
監督ともななるだろう。そして三位一体で向上(努力)していけば
必然的に強くなり土のレベルのチームに勝つことが「でき、私の云う
〈伝統〉が出来上がるのではないかしら。

1984

“闘志を内に秘めて…”

日頃は、ニコニコしている先輩方だが、試合となるとものおどけかたを込めた年代でもあり、おのあのが”人一倍”努力した年でもある。

後輩たちにとって、その姿は、試合に対する姿勢について勉強になるであろう。

南山城大会 (7人制)

- ・1回戦 昭和58年11月13日 対 桃山 14-0 <勝>
- ・2回戦 = 11月19日 対 八幡 4-0 <勝>
- ・3回戦 = 11月26日 対 東陵 34-0 <勝>
- ・決勝戦 = 12月4日 対 久御山 4-6 <敗>

近畿大会予選

- ・1回戦 昭和59年1月29日 対 城南 11-6 <勝>
- ・2回戦 = 2月5日 対 向陽 30-4 <勝>

近畿大会

- ・3回戦 昭和59年2月9日 対 同志社 0-86 <敗>

総合体育大会 2回戦

- ・2回戦 昭和59年5月19日 対 洛水 14-0 <勝>
- ・3回戦 = 5月27日 対 亀岡 20-17 <勝>
- ・4回戦 = 6月2日 対 花園 12-50 <敗>

南山城大会

- 昭和59年6月9日 対 同志社国際 10-4 <勝>
- 昭和59年6月10日 対 城南 4-16 <敗>
- 昭和59年6月17日 対 東陵 68-6 <勝>
- 昭和59年6月24日 対 洛水 8-16 <敗>

第16回 京都府高校ラグビー秋季大会

- 1回戦 昭和59年9月16日 対 日吉ヶ岡 28-0<勝>
 2回戦 昭和59年9月22日 対 北稜 20-8<勝>
 3回戦 昭和59年9月29日 対 花園 4-80<敗>

第64回 全国高校ラグビーフットボール大会京都予選

- 1回戦 昭和59年10月21日 対 花園 4-40<敗>

木下 景介 (8.F.W)
 チームのパワーの持ち主
 チームにベンチブルームを
 吹きおこした。

橋本 輝彦 (7.F.W)
 ラインアウトの名手

松山 磨 (11.F.W)
 小柄な体の中に底知れぬパワーを
 秘めた男。鋭いタックルですぐ練習
 中に味方をつぶす。

北尾 繁幸 (9.S.H)
 誰もが見過ごすべき努力家。

村田 智彦 (10.S.O)
 見た目より足が早く誰かが惑
 わされる。

田倉 政憲 (3.F.W 主将)
 生まれも育ちのタックラー。律儀で優しい。

小西 正一郎 (13.C.T.B. 副主将)
 ものばえた心臓。インテリ。

今江 久 (5.F.W)
 チームの巨漢選手。ラインアウトをまか
 せられ、試合にはなるじかを発揮する。

永沢 良典 (14.W.T.B)
 足が早く、何をしても面白い男。

近本 智 (4.F.W)
 じこからともなく現れて大仕事をする。

奥田 健 (6.F.W)
 セービングやタックルがピカール。

原 千鶴重 (マネージャー)
 いつも元気で声がかめいい

桑原 繁美 (マネージャー)
 よく笑い、レオパリのマネージャー



東宇治高校ラグビー部へそして、後輩たちへ

9期部長 田倉政憲

東宇治高校ラグビー部・創部十周年、おめでとうございます。

僕も東宇治ラグビー部の十年の歩みの中で部員の一人として活動できたことを大変うれしく、思っています。僕は、ラグビー部からいろんなものをもらいました。それらは、どれも僕がもち続けていきたい大切なものばかりです。そして僕は、三年間のいろいろな思い出を心に残しました。楽しい事、苦しい事…その中でもみんなが何かを目指して、一生懸命にやっていた時のことは、思い出さなくて、うれしくなるような、宝物のようなものです。

僕はこれから東宇治ラグビー部を支えていく後輩達に望みます。それは、未勝利出でもなく、優勝でもありません。短い三年間を、一生懸命やりぬき、後で思い出した時にラグビーをやって本当によかったと思えるような思い出を沢山つくってください。そしてラグビーを心から好きになって下さい。

最後に東宇治ラグビー部にこれからも本当にラグビーが好きな人を、どんどん送り出してもらいたいと思います。

9期マネージャー 萩原繁美、原千鶴重

私達が卒業してはや一年ちかたつたあが、高校時代の思い出と言いますと、第一に、クラブがやはり思い出が、楽しいこともありましたが、実際、つらい事の方が多かったようです。特に一年生の時は慣れないこともあり、精神的・肉体的に疲れていました。仕事の面では、大変つらいことばかりでしたが練習試合や、大会などの時に、15人のメンバーが一球のボールを無我夢中に追っている姿などを見たりしていると、心の底から何か感激おそれのがわいてきて、がんばろうという気にもなりました。又、試合などに勝った時は、何とも言えない喜びがあります。そんな時、部員、一人一人がとても輝いて見えました。そういう部員達のおかげで、今、こうやって、こんな私たちでもOBとなることができました。皆さんに大変、御迷惑をおかけしましたと思っております。先輩方や、同期の人達に感謝しています。

最後に、あまり、さらさらなことは言えませんが、私達は一年の時に、一度クラブをやめようと思い逃げたこともありましたが、あなたたちは、部員のためにも、所のためにマネージャーとして決して自分に負けず最後まであらゆる面でがんばってもらいたいと思います。部員の人達も、マネージャーが困った時には、相談ののってあげて下さい。体力的にしんどい思いはありますが、弱音をほかの部員同志、肩あしあて、試合に向けてがんばって下さい。



“ おまえら、よー見とけ！
この次は、おまえらの時代や！”

この言葉は、10期 岡田主将が最後の公式戦の前に、
悔業達に言ったことばである。
歴代2度目の Best 4 進出か!! と、OBや、部員の内でも、
おきもいたが、結果は、おしくもバスター止れとなった。
しかし、この先輩方の姿を見続けられた後輩たちにとっては、
どんな説教よりも、身にしみたものではなかったろうか。

第36回 近畿高校ラグビーフットボール大会 京都府予選

1回戦：昭和60年1月27日 対 八幡 94-0 勝利
2回戦：昭和60年2月2日 対 洛西 8-22 敗退

第38回 京都府高校総合体育大会

1回戦：昭和60年5月11日 対 鶴ヶ丘 31-0 勝利
2回戦：昭和60年5月18日 対 向陽 22-0 勝利
3回戦：昭和60年5月26日 対 宇治 48-0 勝利
準々決勝：昭和60年6月1日 対 同志社 6-13 敗退

第8回 南山城大会

Aブロック予選：

Aブロック 優勝	}	昭和60年6月15日 対 同志社国際 50-0 勝利
		16日 対 洛水 42-0 勝利
		22日 対 城陽 19-0 勝利
		29日 対 東陵 56-0 勝利
		30日 対 田辺 16-0 勝利

→ Aブロック対Bブロック 決勝

昭和60年7月6日 対 城南 12-6 勝利

————— 南山城大会 優勝! —————

第17回 京都府高校ラグビーフットボール秋季大会

2回戦：昭和60年9月14日 対 紫野 46-4 勝利
3回戦：昭和60年9月22日 対 日吉ヶ丘 54-0 勝利
準々決勝：昭和60年9月28日 対 同志社 4-10 敗退

第10回 全国高校ラグビーフットボール大会 京都府予選

2回戦：昭和60年 10月26日 対 牟治 40-0 勝利
3回戦：昭和60年 11月4日 対 日吉北 62-0 勝利
準決勝：昭和60年 11月10日 対 花園 0-34 敗退

※ 前ページ、秋季大会と上の全国大会の一回戦は、シード。

同志社の2度における対戦で、かなし Best 4につめあげたが、おしくも敗退。最後の公式戦である、対花園戦(全国大会)では、部員たちの落であった。芝生グラウンドで試合をおこなうことが、でき、力を存分にだした試合であった。

<卒業生>

岡田 頌 (14・WTB)

主将。チームNo1のポイントゲッター。
東洋台に岡田あしと名をたてた

城守 秀利 (7・FW)

チームNo1の無精な番付持
るためか、自分にきびしい。

寺嶋 領一 (9・SH)

チームNo1おぼしき鬼、
無責任パスの鬼!

堀江 宏仁 (12・CTB)

練習きついな男しかし、強に
なる自学の豊富な技術を
出し、チームを引っ張る。

鈴木 清一 (11・WTB)

たてに強いウイング
"せい 鈴木"の異名あり

松山 寿 (10・SD)

チーム力No1 ギャグの帝王
GKもつとめる

武村 直文 (13・CTB)

基本に忠実なパスを
出す、チームの中心にたつとめる

菅野 勝弥 (15・FB)

攻撃的。ラインにかかると
の7911 FB

若松 純一 (1・FW)

いつも冷静、チームNo1の筋力マン
"源流"、"わか"

佐野 純治 (6・FW)

影の支配者、チームの事をよく考
える、477の7911ランカー

林 敦彦 (8・FW)

いつも笑顔でおもしろい
源流、7911 No.8



第10期主 岡田 明

僕らのチームは、キャプテンの僕も頼りなかったけど、メンバー、一人一人が向上心旺盛で活気のあるチームだった。そんなチームがでるまでの2年半が一番思い出に残っているのは試合や練習の体をこめて、すごいプレーをみせてくれた時の仲間の顔、声だ。みんなが思い、まじり込んでいる雰囲気の中に入っているのが、すごく嬉しかったし、そんな、やりがいはあった。最後まで頑張れたのも、みんなの御陰徳だと思う。みんながラグビーという素晴らしいスポーツに接することができた3年間の思い出は素晴らしい思い出として、これからの生活の励みになってくれると思う。色々お世話になった、谷野先生、大橋先生、後輩達、マネージャー、本当に感謝しています。後輩、マネージャーには教えてくれた事は少なかったと思うけど、自分達の時代を本当にやり良かったと思えるように頑張っていました。

東宇治ラグビー部に栄光あれ！！

寺島 領一

小さい日にたまたまおみながら、青春の日々を思い出す。自分は何を考え何をすればいいのかと人生を悩み続けた。この3年間、自分の心の支えとなったラグビー。クラブとしてすごした3年間を一生をこめられることはないだろう。そんなクラブに入社して本当に良かったと思ってる。つらいこと、楽しいこと、悲しいことなどいろいろあった。一年の時ほど本当に苦しい日が続き、退部したいという言葉が幾度となく頭の中をうすまわっていた。それに乗りこえてこそ真のクラブがあり、青春のヒーローに食わされた。一年の時ほど、やたらに長く感じられ、みんなについていけなくて一杯だった。みんな一年を乗りこえて、さすがに二年生は楽だった。しかし、上級生としての責任もあり、また三年の先輩方がおられたので、練習にはほりもあり、実に充実していた。そんな日々も品まじり三年になると、最上学年としての指導もたいへん。東宇治ラグビー部の伝統を保持しなければならぬという使命にやりがいをもちながら、その一年間を一杯ラグビーにかけてきた自分に、誇りを感ぜられます。

最後に、この青春を満足させてくれたラグビーに本当に感謝し、これならも後輩達にこの良さをわかってほしいと思います。またクラブを通して、素晴らしい友人にもめぐりあえたことを最高の喜びだと感じています。

良にありふれた言葉で すいませんが、みなさんにこの言葉を送りたいと思います。

One for all, All for one.

三 お待たせしました。

原稿の寄稿・編集・製本・の都合上、伸びに伸び
（いた）十周年誌が やつと出来上がりました。

十周年誌作成に伴い、各歴代 主将、副主将、
マネージャーなどのOBの先輩方、東宇治高ラグビー部に、
力を注いでくださった諸先生方に、多大な御協力を頂
き、大変感謝しております。

手書き故に、読みにくく、誤字^ゴ字も多い反面、一フーフの
歴史、経過、伝統をかみしめて、喜いたつもいである。

今、ラグビー部は、かわらぬ努力と躍進をつづけています。
そして今でも、ラグビー部のために力を貸してやろうという先輩方が
たくさんおられるという事は、私達現役部員にとって、かぎよく、
良き伝統の重要性を感じさせられます。

これから、20年、30年、続くであろう、ラグビー部が、年々顔ぶれが
変わろうとも あばらしき 伝統と歴史だけは、いつまでも保持してほしいと
熱望しています。これからも、先生、OBの先輩方のおしなない御指
導・御協力を、ラグビー部の発展のため、よろしくお願ひします。

東宇治高校ラグビー部